

令和2年度 第2回 学校運営協議会まとめ

大阪府立泉北高等支援学校

- 【1】 実施日時 令和2年11月6日(金) 午後3時30分～午後5時
- 【2】 実施場所 集会室
- 【3】 出席委員 田村 仁彦氏 (元堺市立上神谷支援学校 校長) 協議会会長
八田 忠敏氏 (元社会福祉法人コスモス理事長) 会長代理
松林 利典氏 (堺市障害者就業・生活支援センター センター長)
島村 俊樹氏 (堺市立上神谷支援学校校長)
伊庭 裕美氏 (大阪府立泉北高等支援学校 PTA 会長)

【4】 内 容

① 開会(教頭)

配布資料を確認

本日の協議会の成立を確認

② 校長代理挨拶 (教頭)

③ 会長・委員自己紹介

④ 協議

(1) 「令和2年度学校経営計画」について

教頭より中期目標3点の中から重点目標の中間報告

1 生活自立コース、社会自立コース、就労支援コースの教育課程等の充実を図る。

(1) 教育課程の改善

性に関する検討委員会で取り組んでいた大阪大学の野坂先生との研究をうまく運営し、生徒の関わりにおいて生かせていなかった。特に、生徒と教員などの距離感というのを再確認している。

(2) 職業に係る授業を通じ、生徒のチャレンジする意欲を育む。

教育課程委員会の中で各コース(生活自立・社会自立・就労支援)におけるさらなるキャリア教育を考え、シラバスに反映させ授業をしていくこと強化していく。

(3) 個別の教育支援計画、個別の指導計画等の充実を図る。

1年生から個別の教育支援計画の様式に変更している。3年計画で変わっていく予定。保護者からのご意見も踏まえて改定していく卒業より良い支援を受けれるようにしっかり運用できるようなものを作成していく。上神谷支援学校からの引継ぎをしっかり行い、コーディネーターを

通して連携を図っていく。

2 支援教育力の向上

- (1) コロナ対策により、給食配膳や生徒会活動など通常の教育活動ができない状況にあるため、生徒の活動が減っていることが残念。
- (2) 昨年度から堺ブロックの活動が始まった。評価指標では、年に10回とあるが、コロナの影響もあり1回の実績を予定している。上神谷神学校のコーディネーターの巡回相談に同行ということで進めているところである。また、福祉の各関係機関と在学中から連携を深めていく。
- (3) コロナの影響で、パソコン室が使用できない状況である。HR教室でipadを使用することにより情報の授業を行っている。現状、ipad24台で運用しているが、コロナ対策で12台追加購入をした。今後36台でipadを運用していく予定。校内のWifi環境の整備については、年度内に行う予定。校内Wifi環境が整えば、教育活動の幅も広がるのではと考えている。

3 安心で安全な学校環境づくり

- (1) 6月から学校が再開になってから現在も毎朝生徒が登校すると教員は健康観察チェックを行っており、少しの体調不良を見逃さないようにしている。また、体調不良が出た場合の相談機関とも密に連携をとっている。
- (2) 危機管理体制を更に堅固なものとする。
防災訓練についても安全を保障する中で生徒の実態を踏まえた上での教員の対応を強化している。
- (3) 部活動生徒（生活）指導の充実を図り、自己肯定感を育成する。
コロナ感染症の影響で、校内での部活動は、活動再開しているが、地域の大会などは現在も自粛されている。

- 意見
- ・コロナ対応でマスクをすることになったが、マスクができない生徒はどれくらいいるか。
⇒学年で2～3名はマスクをすることが難しい生徒がいる。その関係で今年度の校外学習の場所を決めるにあたって、マスク着用が必要になる場所は除外せざるを得なかった。
 - ・学校で体調不良がみられた場合は、誰が対応するか？担任が付き添っての待機になるのか。
⇒体調不良が見られた場合は、体温チェックや聞き取りは保健室で行

い、その後は、別室で保護者の迎えまで、基本的には担任と待機する。

- ・各通学バスに携帯電話があるということだが、費用はどういう支払いになっているか。
⇒費用は学校が負担している。
- ・部活動の話があったが、陸上・ソフトボール以外は何があるか。
⇒バスケットボール・木工・美術・ワープロ部また、期間限定で南中ソーラン・サッカー部がある。
- ・個別の教育支援計画の新様式を次回の会で是非見てみたい。
- ・支援学校の中学部を卒業された生徒さんの保護者は、個別の教育支援計画のことをわかっているが、地域の中学校を卒業された生徒の保護者は書き方や利用方法などわからないという声を聞くことがある。堺市立の中学校への個別の教育支援計画をもっと浸透できたらよい。
- ・小学校でも2年前から個別の教育支援計画に保護者が押印している。
- ・障害者就業・生活支援センターでは、利用者さんの個別の教育支援計画1件ごとに1案件として捉えるので、さらに関係者には浸透して欲しい。

4 その他

支援学校の設備面など今後かわっていけばよいと思っている。戦後すぐにできた保育園の基準が70年経った現在も変わっていない。福祉に関わるものは、常にこのことを思っている。堺市に高等支援学校（職業科）があればよい。

⑤ 会長（まとめ）

私の勤務している団体施設では、利用者4：支援者1で対応している。事業団では職員を減らさなければ、指定事業団にしてもらえない。福祉の現場を考えた理想の職場というものになっていけばよい。

⑥ 教頭より謝辞

⑦ 事務連絡

- ・保護者からの意見書の投函なし。

次回の日程について（1月15日（金） 15：30～）